



## 医療安全に向けた建築的戦術



一般社団法人 日本医療福祉建築協会 会長  
工学院大学 建築学部 建築学科 教授

山下 哲郎氏

近年の「ICT」、「AI」、「DX」、「ロボット」等々の技術は、医療や福祉の世界にどんな変化を与えてくれるのでしょうか。例えば、患者が転びそうになった時やベッ

ドから落ちそうになる状況を、いち早くセンサーが感知して、その後の動きを人工知能が予測して警報を発してくれる、あるいは対応してくれる、なんてことができるかもしれません。センサーと人工知能など、そのブラックボックス内のこととは理解の範囲を越えますが、予感や予測に関わる技術、人間の能力を拡げてくれる技術の進歩を期待を持っています。

こうした情報分野などの進歩に比して建築は、医療やその安全にどんな貢献をしてきているのでしょうか。地震やパンデミックといったいわば「非日常」の出来事に対しては、免震構造や制震・耐震構造の技術、上下水・医療ガスなどを運ぶ配管の地震時の破断対策技術、空気質を管理する排気や吸気のコントロール技術等々の進歩により、概

ね期待に応えられる成果が上がっているよう思います。おそらくこうした「非日常」の出来事に対しては、事の重大さや、急を要することから、業界を挙げて組織的に取り組まれて、また話題にもなるのでしょう。

一方「日常」の出来事に対しては、日々の場面での個別解に任せられている、といった状況ではないでしょうか。転倒防止のための、床素材の摩擦係数差の解消策、高齢者やロービジョンの方々に対する、サインや内装材の色選択策、あるいは点字ブロックの突起解消策、清掃がし易く埃溜りとならない隅々の作り方等々、非常に雑多で多くの対策が思い浮かびますが、あまり広く知られてはいないようです。

他所様のお宅に立ち入る機会もあまりないでしょうし、ましてや家を建てる機会は一

生に一度あるかないか、ましてや当事者として中心的に建設に関わる機会も殆どない訳ですから、細々した「日常」安全への配慮など、気づかれなくて当然でしょう。先端的で高度な話題性のある技術は、これからもどんどん発展して欲しいのですが、一方で、人間の目や身体などに直接触れる部分、情報分野で言えばインターフェース部分の進歩は、地味な試行錯誤の繰り返しに依ります。

だからこそ逆に、個々人の気づきや知恵で、容易に解決に向かい発展させられるようにも思います。こうした個別解や解に至る道筋など、様々な知恵が蓄積され、情報共有できる仕組み作りにも目が向けられるべきではないでしょうか。

### 研究科長挨拶

新型コロナウイルスの感染拡大は、医療現場における安全の確保がいかに重要であるかをあらためてわれわれに認識させる機会となりました。滋慶医療科学大学大学院の教育目標は、医療の質・安全の向上に指導的立場で貢献する人材を育成することにあります。そのためには、医療の質・安全に関する専門知識と高い研究能力が必要です。

本学の強みは、医学、看護学、薬理学、臨

床工学などの医療系専門分野以外に、心理学、経営学、工学などの多様な分野の専門家からなる教員のもとで、講義や研究指導を受ける機会を提供できることにあります。講義では、医療の質・安全の基礎となる必修科目と、それぞれの目的に沿って幅広い分野の知識を習得する選択科目を配置しています。修士論文の作成に当たっては、多様な分野の研究手法に対応できるよう、原則として2

### 研究科長挨拶

名以上の専門分野の異なる教員から直接指導を受けます。

本学に入学する方は、医療現場で働く社会人大学院生が大多数です。仕事や家庭と両立させながら講義や研究課題をこなすには大変な努力と周囲からの理解が必要です。本学大学院の教職員は、学生の皆様に寄り添いながら、学業が無事に修了できるよう全力でサポートします。



医療管理学研究科 研究科長  
和佐 勝史

医学博士／大阪大学名誉教授

### 新任教員紹介



飯干 泰彦先生

小児外科医として30年以上、診察・手術・小児救急に携わり、名前も言えない患児の取り違えや左右の間違いなどが起こりうる現場で、自ずと医療安全に心をくだいてきました。チーム医療の重要性も認識していますが、スイスチーズモデルの穴の開いていないチーズになるべく、自分の受け持つパートでエラーの連鎖をとめるよう色々工夫もしてきました。また、栄養管理センター長としてNST回診を行い、食物アレルギーや異物混入等の対策に携わり、栄養管理に関する医療安全にも心をくだき、医療安全管理委員会にも携わってきました。今後は、救急医療や栄養管理に関するテーマに加えて、今世紀に入って組織としての医療安全に対する試みが行われている一方、裁判等では未だに個人の責任追及に焦点が当たっている場合もあるため、組織としての安全体制が考慮されるように研究を行い、働きかけていきたいと考えます。



萩原 邦子先生

私はこれまで臓器移植のレシピエント移植コーディネーターとして北海道大学病院および大阪大学医学部附属病院で長年従事し、複数の臓器移植や成人・小児患者を担当するなど幅広く実践し、移植看護の発展に寄与してきました。博士前期・後期課程を社会人学生として学び、臨床の課題を研究に発展させてきました。特に生体間の移植における意思決定支援などの臨床倫理や、看護職としてのレシピエント移植コーディネーターの役割や実践についての研究に取り組んできました。移植医療は一般医療に比べてリスクの高い医療であるとともに、安全管理が非常に求められる医療です。また私はレシピエント移植コーディネーターと同時に看護管理者としても従事し、病院内外を超えたチーム医療の構築など移植医療の安全管理に重点をおいた取り組みも行ってきました。これまで培ってきた移植医療の経験を活かして、医療安全管理や多職種連携領域の教育・研究に寄与していきたいと考えております。



別所 一彦先生

今年4月1日より本学に着任致しました。私はこれまで主に大阪大学医学部附属病院で小児科医として、臨床、研究、教育に従事して参りました。臨床では小児の胆道閉鎖症をはじめとした小児慢性肝疾患の内科的管理、肝移植適応評価、肝移植後の管理、短腸症候群、慢性特発性偽性腸閉塞症、表皮水疱症の栄養管理などを行い、研究では、臨床検体を用いた胆道閉鎖症の病因解明・治療法開発に向けた基礎研究、小児C型肝炎、進行性家族性肝内胆汁うっ滞症の臨床治験に従事してきました。また院内児童虐待防止専門委員会、小児薬剤誤投与防止ワーキンググループ、アドバンスト・ケア・プラニングワーキンググループの一員として、多職種連携のもと、医療安全、患者権利保護の活動を行って参りました。これまでの経験を活かしつつ、多様な医療背景を持つ皆様と、実践に即した研究を行っていきたいと思っています。宜しくお願い致します。



大村 優華先生

私は、大学を卒業したのち、主に急性期病院において看護師として勤務してまいりました。大学院では、看護管理学教室に所属し、看護師の現任教育や離職に関する研究と、看護ケア提供時の身体的負担に関する研究を行い、深刻な人材不足で疲弊する医療介護従事者の環境改善、負担軽減をめざしております。2018年からは、医工連携を行う部局に所属し、医療機器に関する研修の運営に携わるとともに、体位変換ケア時の介護者支援機器の開発を行ってまいりました。

今後は、これら医工・看工連携の経験を生かし、医療機器をはじめとして臨床現場で使用されているさまざまな機器に関連した安全対策に関する研究にも取り組んでいきたいと考えております。

多様な専門性をもった教員・学生の皆様と学際的な研究ができるることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 在学生へのメッセージ

公益社団法人京都保健会 京都民医連中央病院

医療安全管理課

主任 日比 麻有さん(11期生)

私は、急性期メインの中規模病院で専従の医療安全管理者をしています。職種は薬剤師です。2018年に現在の部署に異動しましたが、薬剤師業務とのあまりの違いに当時は転職したような気分でした。

医療安全管理者は、院内で組織横断的に活動し、求められる知識は多岐にわたります。型通りの業務には徐々に慣れましたが、理屈や根拠がよくわからずに対応する場面も多く、このまま実務経験を積んで良いのだろうかと疑問に感じていました。医療安全の知識を体系的に学びたい、科学的な医療安全を現場で実践したい、そう考えたことが、大学院進学のきっかけです。上司にもその希望を伝え、快く背中を押していただきました。入学後は、他部署の方からも「がんばりやー」とよく声をかけていただき、温かい職場環境に感謝しています。

私が思う本学の最大の魅力は、当たり前のように多職種で学ぶ点です。11期生の中では、薬剤師は私ひとりです。看護師、臨床工学技士をはじめ様々な職種、経歴の同級生に囲まれ、いつも良い刺激をもらっています。グループワークの機会が多いこともあり、気づけば多職種でディスカッションすることが「普通」



になりました。また、先生方の専門分野も多様で、授業では医療者の常識が覆ることしばしばです。新しい視点に触れ、医療安全を推進する上での医薬品、薬剤師のあり方について改めて考えさせられます。確かな知識とともにこれらの感覚が得られたことは、大きな収穫です。

そんな学生生活もあつという間に1年半が過ぎ、研究も佳境を迎えます。私は、医薬品の安全使用についての医療者の考え方を調査しています。自身の経験もふまえ「薬の安全のために、もっと協働できたら」との思いから計画しました。うまくまとめられるか不安ですが、先生方の丁寧なご指導のもと完遂したいと思います。そして、大学院での学びを医療現場に持ち帰り、多職種で医療安全を推進していきたいと思います。

## 修了生の活躍

日本赤十字社 高槻赤十字病院 医療技術部

課長 中田 祐二さん(10期生)

「医療安全管理者になる」という現実が私の大学院進学のきっかけでした。

これまで私は臨床工学技士として、また医療機器安全管理者として日々病院の医療安全に関わっていました。私は臨床工学技士に誇りと責任を感じていたのですが、「このまま同じ領域の中で過ごしていくいいのだろうか」と言う想いもありました。そんな時に医療安全管理者の話があり、さらに大きな領域に身を置くことに期待感がありやってみようと思いました。医療安全管理者になる為に養成研修を受講したのですが、突き詰めるタイプの私はそれで満足できず、滋慶医療科学大学院大学(現在の滋慶医療科学大学大学院) 医療管理学研究科修士課程を受験しました。

そして医療安全管理者と大学院生の生活が始まりました。まず感じたのは忙しさでした。講義に出席する為には仕事を確実に終わらせる必要がありました。多くの講義はコロナ禍の為オンラインでした。一部は大学で行われていましたが、私はほとんどオンライン参加でした。講義内容はとても興味深く、得るものが多く、これまで私に不足していた部分を補ってくれました。中でも安全心理学特論、経営組織特論や医療行動分析学特論などでは人の心理や思考から生まれる行



動を学び、そのマネジメント方法やリーダーとしてどうあるべきかを学びました。さらに医療安全管理学事例研究ではImSAFERなど現場で活用できる分析手法を学びました。また講義はディスカッションを中心としたものが多く、自分達で答えを出していくスタイルは、やりがいや楽しさがあり、前のめりで学ぶことができました。

研究では、私は入学前から課題を決めていました。課題はペースメーカーの胸郭インピーダンス値を使った心不全予測に関するものでした。現在、1社のみ心不全予測ができるのですが、他メーカーはできません。それを他メーカーでもできるはず、そして多くの人に役立てるはずと考え課題としました。今思えば本当にざっくりとした仮説でしたが、指導教員の教授は、私の考えを尊重しながら良きアドバイスやご指導をしていただきました。今は研究生として、さらなる研究を同じ教授のもとで進めさせていただき、この研究成果の論文発表に取り組んでいます。

## 安全管理を徹底して行われた滋慶医療科学大学大学院の入学式

本学大学院の「2022年度入学式」が4月2日(土)、大阪ガーデンパレスにて行われました。始めに、千原國宏学長から、「この恵まれたオープンな横断型研究教育環境を活用して、幅広く深い学識と研究能力、また高度な専門的職業を担う卓越した能力の涵養に心がけ、院生同士がお互いに切磋琢磨して生涯の友に出会う機会が訪れる事を心から願っています」と、訓辞が述べされました。

続いて、学校法人大阪滋慶学園浮舟邦彦理事長は、「仕事や家庭をもって勉学、研究するためには、周りの方々の協力が何よりも必要になってきます。周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、医療の質と安全管理学の研究者、また実践者として、マネジャーとして、高度な専門性を備えたリーダーとして育っていってください」と祝辞を述べました。その後、大阪大学大学院医学系研究科研究科長・医学部長 熊ノ郷淳先生から「皆さんがこれから学んでいくことが社会、医療の現場で求められていることだということを強く意識していただき、自覚をもっていただけたらと思います」と祝辞を頂き、さらに、大阪大学医学部や大阪大学大学院医学系研究科と大阪滋慶学園との密接な関係についても触れられ、「今後も一緒にやっていきましょう」と激励のお言葉を頂きました。

最後に、入学生を代表して、医療管理学研究科医療安全管理学専攻修士課程の横山里美さん



が「これからの大学院での学びに大きな希望を抱き、地域や分野から集まった仲間たちと出会えることに感謝し、多種多様な学びと経験に基づき指導して下さる先生方の下、真摯に研究に取り組み、現場でリーダーシップを発揮できる人材となることを誓います」と力強く宣誓しました。

入学生の皆様、多忙な日々が続きますが、その中の貴重な学びと研究の時間を有意義にお過ごしください。

教職員一同、応援して参ります。

## オープンキャンパスのご案内

オープンキャンパスでは、オンライン並びに対面等にて本学の特徴や背景についての説明、カリキュラム、入試制度の案内のほか、講義の体験ができる模擬授業も実施しています。また、修了生によるメッセージもご覧いただけます。入学後の履修科目の選択方法や仕事との両立の仕方など、また、研究テーマについて個別に相談ができます。入学を検討されている方は是非オープンキャンパスにご参加ください。

### オープンキャンパスの流れ

#### ① 全体説明

本学の特徴や医療安全管理学分野を学ぶ意義などを説明します。

#### ② 模擬授業

実際の講義を通して、実践的な講義を体感してください。

#### ③ 修了生メッセージ

入学動機や修士論文作成までの流れなどについて修了生が説明します。

#### ④ 個別相談

仕事と学びの両立方法やカリキュラム、学修支援など、個別にご相談に応じます。

個別相談会・授業見学も随時行っております。

お申し込みは本学ホームページ、またはメール、電話でお願いします。

## 編集後記

コロナの流行は、在宅勤務や物流の無人化等を進め、医療福祉施設の現場でも、診療、面会のオンライン化が進みました。一方、医行為、介助業務など、テレワークとはいかず、当然、接触し、向き合う必要があります。アフターコロナにおける医療福祉の世界はどう変化していくのか。医療福祉機関の皆様の献身的なご努力に敬意を表しますとともに、一日も早い日常の回復を祈念しております。

## 大学院事務局から

事務局への連絡はメールアドレス [jimu@juhs.ac.jp](mailto:jimu@juhs.ac.jp) または 電話06-6150-1336へお願いいたします。(火曜～金曜10時～21時、土曜10時～19時、日祝・月曜休)